

会 議 録

会議名 (審議会等名)		第40回 相模原市地域公共交通会議		
事務局 (担当課)		まちづくり推進部 交通政策課 電話042-769-8249(直通)		
開催日時		令和3年12月17日(金)13時00分~14時45分		
開催場所		産業会館4階 懇談室		
出席者	委員	12人(別紙のとおり)		
	その他	1名(随行者・神奈川中央交通(株))		
	事務局	7名(交通政策課長、外6名)		
公開の可否	可	不可	一部不可	傍聴者数 1人
公開不可・一部不可の場合は、その理由				
会議次第	<p>1 開会</p> <p>2 協議事項</p> <p>(1) デマンド交通の実証運行結果及び本格運行への移行について</p> <p>(2) 地域公共交通確保維持改善事業の事業評価について</p> <p>(3) 相模原市バス交通基本計画の進行管理について</p> <p>3 報告事項</p> <p>(1) 生活交通維持確保路線及びコミュニティ交通の利用状況について</p> <p>(2) 藤野地区バス路線の現状について</p> <p>(3) 相模原市総合都市交通計画(案)について</p> <p>(4) 来年度以降の活性化協議会及び地域公共交通会議について</p> <p>4 その他</p> <p>5 閉会</p>			

議 事 の 要 旨

会議結果

協議事項（１）デマンド交通の実証運行結果及び本格運行への移行について

協議事項（２）地域公共交通確保維持改善事業の事業評価について

協議事項（３）相模原市バス交通基本計画の進行管理について

原案のとおり承認

審議経過

２ 協議事項

（１）デマンド交通の実証運行結果及び本格運行への移行について

事務局にて会議資料（資料１）の説明を行い、その後、質疑応答。

（大島委員）デマンド交通から乗合タクシーに位置づけを変更することによるメリットはあるのか。また、乗合タクシーとして継続条件を適用することとなり、条件を満たせない場合はデマンドタクシーに移行することになるのか。

（事務局）現在策定中の総合都市交通計画の中で、デマンドタクシーはタクシーの空き車両で賄える程度の需要に対応した交通モードとして位置付けており、利用状況を見る限り、菅井地区の需要は賄い切れないと考えられる。スクールバスとその他の利用を合わせて効率化した運行が乗合タクシーの継続条件を満たしている状況であり、地域目線でも、車両１台を貸し切る乗合タクシーのほうが利便性は高い。なお、実証運行期間中において台風やコロナで利用促進活動がままならない状況でも条件を達成できている。利用促進活動を行い、長期持続的に維持していきたいと考えて取り組んでいるところ。条件を満たさなかった場合は、スクールバスで対応できるかも含め、こういった形が効率的なのか、需要に合わせて考えていくことになると思われる。

（大島委員）乗合タクシーにすることで、公費も大きくなるのか。

（事務局）実証運行時は２台で運行していたが需要を踏まえ１台での運行とするため、実証運行時よりは経費を抑えられる。また、菅井地区のデマンド交通はもともと車両を貸し切りで行っており、ダイヤ設定が一部無いことくらいしか乗合タクシーとの違いはない。

（大島委員）篠原地区は平日午前６時３０分から運行しているということだが、需要がなければ運行時間を短縮するという考えはあるのか。

（事務局）通学需要に対応するため午前６時３０分から運行となっており、短縮の予定はないが、予約が入らなければ、藤野交通（株）の本来の営業時間である午前８時に出社いただくというかたちで、デマンド交通の予約が入ったときのみ対応いただいている。

（三橋委員）菅井地区のデマンド交通は、時間貸しで車両を使用しているのか。

（事務局）４条許可の乗合事業のため、いわゆるタクシー事業の貸し切りとは異なるが、運行時間内は貸し切っている。

(岡村会長)理屈上は、乗合タクシーで上手くいかなかった場合にデマンドタクシーに移行することはあると思うが、恐らく実際に起こり得るのは、乗合タクシーの基準は満たさないが、通常のタクシー車両を活用しながらというのも上手くいかず、どちらにもはまらないという状態であると思われる。現状、手はまだなく、基準を変えるなどをやらざるを得ないと思われるが、それはそういった事が起きそうになった場合に、議論をしていくということになる。

(結果)原案のとおり承認。

(2) 地域公共交通確保維持改善事業の事業評価について

事務局にて会議資料(資料2)の説明を行い、その後、質疑応答。

(梶田委員)地域での協議会の開催はどのような形で行われているか。

(事務局)協議会には主に運行エリアに属する自治会の方々、約20名が参加しているが、令和3年度事業期間においてはコロナの影響により文書等で実績の報告をさせていただいた。普段は運行ダイヤや停留所に関する意見や、利用促進策など吉野・与瀬地区乗合タクシーを実際に利用されている方の生の声を聞きながら進めている。

(結果)原案のとおり承認。

(3) 相模原市バス交通基本計画の進行管理について

事務局にて会議資料(資料3及び別紙)の説明を行い、その後、質疑応答。

(委員代理・齋藤氏)地区別人口に対する公共交通圏域内人口の割合の地域差について、評価案の中で地区間の人口が移動したとの記載については、立地適正化等でそういった施策があったのか、もしくは実績等でそういった傾向が見えたのか。

(事務局)具体的に実施された施策等はなかったため、実績値の推移から要因を推測したものである。

(岡村会長)人口が移動したとなると、圏域の外から圏域内へ引っ越したように見受けられるが、実際には、圏域外の人口が減少し、圏域内の人口が増加したということだと思われるので、記載を修正したほうが良い。

(事務局)承知した。

(梶田委員)運行サービス水準の目標値というのは、幹線等の区分ごとに目標値を定め、それを達成すれば100%という認識でよろしいか。

(事務局)各区分の路線すべてが目標値を達成すれば、100%となる。

(梶田委員)実績を見ると、100%はかなり厳しい目標だったように見受けられる。

(岡村会長)目標値の設定の考え方に立ち戻らなければいけないのかもしれない。

(吉野委員)ノンステップバスの導入率について、現在は国の目標が80%になっているかと思うが、この計画においても見直しを行う予定であるのか。

(事務局)バス交通基本計画が今年度末で終了となるため、令和4年度からの次期計画ではそういった目標値を目指していくことになると思う。

(吉野委員) ICカード利用者の割合がかなり高く見えるが、こういった割合か。

(事務局) 現金払いとICカード払いを合わせた全体のうち、ICカード払いの方の割合を示したものである。今年神奈川中央交通(株)で導入された金額式定期券などで割合は変わる可能性もあるが、令和2年度の実績は資料のとおりとなった。

3 報告事項

(1) 生活交通維持確保路線及びコミュニティ交通の利用状況について

事務局にて会議資料(資料4)の説明を行い、その後、質疑応答。

(岡村会長) 年度内に、継続条件の適用については議論いただくということで、今回は数値の報告となっている。今では大分利用が戻ってきている。市を跨いで通勤する方ではテレワークの方はまだ居て、日中は市内に滞在している方が恐らくコロナ前より増えていると思われる。どこの自治体でも似たような傾向が出ている状況ではある。

(飯塚委員) コロナの影響、という言葉が資料のいたるところで目にするがコロナの影響が今後いつまで続いていくのかはわからないが、コロナ前の状況には戻らないだろうと言われていると思う。生活スタイルが変わればバスの利用も変わっていくと考えられるので、どういう評価をするのか根本的に考えなければいけないと思うので、コロナを逃げ口上に使っているとまでは言わないが、見方を変えて、現状にアジャストすることをお願いしたい。でなければ、評価を評価しきれないので、検討してほしい。

(岡村会長) 新たな状況に対して、値が低いからダメだということもあるし、だからこそいろいろな支援をしていくんだという考え方もある。数字が出ても、方策としては全く逆になる。そろそろこの場で議論をしていくような形になると思っている。

(大畠委員) コロナの関係の話があったが、タクシー利用においては、ほぼほぼ令和元年まで戻ってきている。しかし業界の状況について申し上げますと、長引くコロナの関係でドライバーが仕事を辞めてしまい、新規採用者が来るような状況ではないので、各社の車両の稼働率がかなり減っている現状である。また、今後どうなっていくかという見通しはできないが、明るくはなく、高齢化もあってドライバー不足がかなり長い間続いていくと思われる。利用したくとも、タクシーが来てくれない、乗務員が足りず車庫で車が眠っているという現象が生じており、今後も続いていくと思われる。今後は指標に運送収入のプラスマイナス、輸送人員のプラスマイナスなども参考に加味したほうが良いと思われる。

(岡村会長) タクシー協議会の資料を提供してもらうなどすると、参考となるかもしれない。実車率等を見ないと現状がわからないということもあると思う。バスとはまた違う見方をしなければいけないこともあると思う。

(2) 藤野地区バス路線の現状について

事務局にて会議資料(資料5)の説明を行い、その後、質疑応答。

(吉野委員) 藤野地区においては過去、やまなみ温泉以南、東野月夜野線まで運行して

いたが、人口減少の影響が一番大きく響いて撤退し、他の交通手段に移行となった。報告事項にある路線については、生活路線のため実際のところはコロナの影響をそこまで大きくは受けていない状況である。しかし大きな需要である学生の利用の減少率が大きかった。そのほかテレワークへの移行が数名、また和田線においては土日の登山客利用が昨年4・5月および今年の8・9月はほぼゼロとなったことが響いた。

令和2年、コロナにより当社は初めて大きな赤字を計上し、現在も2割ほど戻っていない。ノンステップバスの導入についても、車両の更新ができる状況になく、車両の耐用年数を上げるなどの措置を取っている。乗合バス業界全体がそのような状況である。もともと非常に厳しい状況の中、コロナが追い打ちをかけたような形となり、今回、市に提案をさせていただいた。

(委員代理・齋藤氏) 事業者から路線の撤退または赤字補填について申し出があった、とのことであるが、これは市に対してあったのは、赤字補填の申し出であり、路線撤退の申し出は市に対しては行われていないということによろしいか。

(事務局) 赤字補填があれば運行継続は可能であるが、赤字補填がなければ運行はないと捉えている。

(委員代理・齋藤氏) 路線退出を視野に入れた申し出があったということか。路線退出というのは県の協議会に対して行われるものであり、市に対して行われるものではないと思うがいかがか。

(岡村会長) 確かに県の協議会があり、撤退のリストに入れるという話もあると思うが、現時点ではまだそこまでは至っていないという認識と考えられる。

(事務局) これから自主運行の意見照会なども掛けさせていただくが、赤字補填により路線が残ることが十分あり得るため、この段をもって、撤退が決まったというわけではない。

(岡村会長) 退出又は赤字補填の申し出があった時点で県の協議会に申し出るケースもあるし、そうでないケースもあると思うが、今回は後者だったと思われる。

(3) 相模原市総合都市交通計画(案)について

(4) 来年度以降の活性化協議会及び地域公共交通会議について

事務局にて会議資料(参考資料、資料6)の説明を行い、その後、質疑応答。
質問、意見等無し。

4 その他

(事務局) 次回の会議日程について、令和4年2月頃の開催を予定している。日時等の詳細については改めてご案内させていただく。

5 閉会

以上

第40回 相模原市地域公共交通会議出欠席名簿

所属・役職	氏名	出欠
東洋大学 国際学部 国際地域学科 教授	岡村 敏之	出席
東海大学 工学部 土木工学科 教授	梶田 佳孝	出席
一般社団法人 神奈川県バス協会 常務理事	小堤 健司	欠席
一般社団法人 神奈川県タクシー協会相模支部 常任理事	大畠 雄作	出席
神奈川県交通運輸産業 労働組合協議会 事務局次長	高橋 和彦	出席
神奈川中央交通株式会社 運輸計画部長	吉野 茂	出席
国土交通省関東運輸局 神奈川運輸支局 首席運輸企画専門官	三橋 裕	出席
神奈川県警察本部 都市交通対策室長	飯島 敏明	出席
神奈川県県土整備局都市部 交通企画課 副主幹	齋藤 栄一	代理出席
相模原市自治会連合会 理事	志村 勝美	欠席
特定非営利活動法人 男女共同参画さがみはら 理事	中西 知子	出席
公募市民	中島 毅俊	欠席
公募市民	飯塚 重善	出席
公募市民	大塚 章	出席
相模原市 道路部長	渡邊 建太郎	出席
相模原市 まちづくり推進部長	椎橋 薫	欠席